

令和6年 愛友会総会

令和6年5月18日(土)

於 愛友会館

総会

開会

1. 会長挨拶
2. 議事
 - ①令和5年度会務報告
 - ②令和5年度会計決算報告
 - ③令和5年度会計監査報告
 - ④令和6年度会計予算案
 - ⑥校歌斉唱

閉会

懇親会

令和5年度 愛友会会務報告

令和5年

- 4月4日 定例会（役員自己紹介）
- 5月9日 定例会（理事長先生のお話）
- 5月18日 会報作成開始
- 6月6日 定例会（会報について、バスツアーについて）
- 7月4日 定例会（バスツアーについて・理事長先生のお話）
- 7月24日 初入稿
- 8月28日 最終入稿
- 9月13日 会報発送作業
- 9月14日 会報発送作業
- 9月15日 会報発送作業
- 9月16日 会報発送作業
- 9月17日 会報発送作業
- 9月20日 会報発送
- 10月3日 定例会（会報発送の報告）
- 11月7日 定例会（バスツアーについて）
- 11月11日 秋の小旅行（淡路島鯛づくしとうず潮見学の旅）
- 12月5日 大掃除・定例会（バスツアーの報告）

令和6年

- 2月6日 定例会
- 3月5日 定例会（総会の準備）

令和5年度 愛友会決算報告書

令和5年4月1日～令和6年3月31日

収入の部

項目	予算額	決算額	備考
前年度繰越金	4,977,681	4,977,681	
同窓会費	5,000,000	6,474,000	高校:4,062,000 短大:2,376,000 卒業生:36,000
受取利子	100	60	
寄付		20,000	エビナユウイチ様
雑収入		42,364	
会館使用料	10,000	43,000	
合計	9,987,781	11,557,105	

支出の部

項目	補正後予算額	決算額	備考
通信・運搬費	1,700,000	1,480,991	会報送料等・はがき・電話・電報
印刷・製本費	700,000	354,398	会報等
事務用品・消耗品費	100,000	259,830	用紙・事務文具等
会議費	30,000	4,897	定例会
行事費	200,000	320,000	総会・講演会・文化行事補助
会館維持費	600,000	510,696	水道・電気・ガス・会館修理・火災保
備品費	500,000	269,898	
報酬・委託手数料	600,000	485,000	事務員給与
慶弔費	100,000	9,900	
セコム契約料(年額)	300,000	358,124	
寄付金	1,000,000	0	母校施設充実費の為
会館維持修繕積立金	4,000,000	0	
予備費	100,000	44,220	
雑費	57,781	880	
次年度繰越金		7,458,271	
	9,987,781	11,557,105	

令和 6年度愛友会予算案

令和 6年4月1日より
令和 7年3月31日まで

収入の部

項目	予算額	備考
前年度繰越金	7,458,271	
同窓会費	4,500,000	
受取利子	100	
会館使用料	10,000	
合計	11,968,371	


支出の部

項目	予算額	備考
通信・運搬費	2,000,000	会報送料等、はがき、電話
印刷・製本費	900,000	会報等
事務用品・消耗品費	300,000	用紙・事務文具等
会議費	30,000	定例会・幹事会等
行事費	400,000	総会・講演会・文化行事補助
会館維持費	700,000	水道・電気・ガス・会館修理
備品費	200,000	コンピュータ・印刷機等
報酬・委託手数料	700,000	事務員給与等
慶弔費	100,000	
セコム契約料	400,000	年額
会館維持修繕積立金等	4,000,000	
母校施設充実費	2,000,000	
予備費	100,000	
雑費	138,371	
合計	11,968,371	

監査報告書

会計監査の結果、元帳、預金通帳、領収書、入金伝票等、
正確に処理されており、何ら誤算不正のないことを認め
これを承認します。

令和6年5月16日

山本かよ子 

前田郁子 

監査報告書

会計監査の結果、元帳、預金通帳、領収書、入金伝票等、
正確に処理されており、何ら誤算不正のないことを認め
これを承認します。

令和6年5月12日

辻 裕美 

和歌山信愛女学院 校歌

作詞：八幡秋子

作曲：水田勝美

1) みどりあふるるとらふすのや
2) くないにおうあかつきのく

まのまつよりをおふかくまことのま
しのみおよりをおふかくおみなのわ

らをしと一めんとあがれつきせのの
まをみが一かんとあまたくにゆるたい

かわをおのがこころのとしとしてなだしきしるべ
うのときときひかりをとしとしてなぬまぬこころ

おぎつつまなびのとうそ一きわめなん
とすじに

一、みどり溢るる虎伏の

山の松よりなお深く

真理の道を求めんと

流れつきせぬ紀の川を

己が心の友として

王しき道標仰ぎつつ

学びの塔を究めなん

二、くない匂う暁の

雲の峰よりなお高く

女性のわざを磨かんと

あまねく映ゆる太陽の

清き光を友として

たゆまぬ心一筋に

学びの塔を究めなん